

として 広報紙に期待する

市民と行政のコミュニケーションづくりの一つとして、広報紙活動があります。『広報よこし』が発刊されてから9年と一〇号となり、その間、広報紙が市民と行政の間でつながりをもたせ、行政の一方通行と未熟ながらも編集者の自覚と行なって来たことは否めない事実です。さて、発行一〇号を契機に今年までの広報のあり方を反省し、住民直轄の広報紙に飛躍してゆかために、各層から直々な意見をいただきました。またアンケート調査を実施しました。

見出しに工夫を

沢海 大町 繁太郎 (74才)

広報を読んで



先づ第一は広報の使命である村政と住民活動とのベイン役を、一貫して果たされている点であります。

「広報よこし」が発刊以来、幾星霜、今年十一月号をもって二〇号をむかえること、当事者の御努力の賜と思いで深く敬意を表します。

村民の手記をのせ

一層の親しみを

木津 山田 正三 (61才)



毎月配布される「広報よこし」を楽しく読んでいます。村民として知る必要があり、また知りたくと思うことは殆ど手落ちなく網羅されているように思われます。

記事の書き方、活字の大きさ、写真等も適切で、紙面全体を通じて、気品ある広報と受け取っています。

強い言葉ばかり過ぎ、その他に重点がかり過ぎ、そのため、調いと親しみが若干不足しているように思われます。

今後村政関係の記事は、大山に譲り、その分だけ大勢の村民の手記を載せ、村民に親しみのある広報にできないものでしょうか。性別、年齢、職業、部落別等により、村民にもいろいろ

豊富な職員と、その号発行に対する姿勢が伺われる。2.村の家計簿の中決算の数字とグラフは老生にはなじまないが大切な記事と思う。

人物の扱い方一つで 写真の生死決まる

横越 笠松 邦夫 (38才)



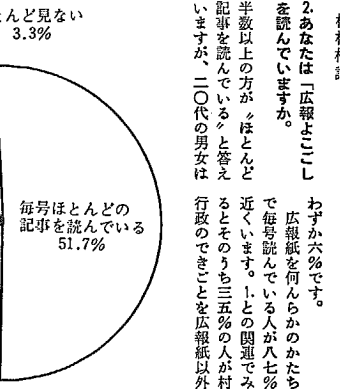
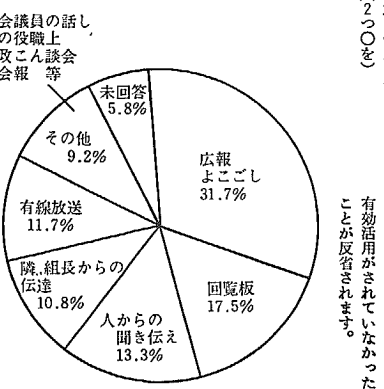
3.子どもサロンは教師の適評もあり、好感がもたれる。4.文芸関係も調いがある。今後の要題 1. (四九・五月号)に掲載された「成人病」についての推考を知らぬ。最近の資料を又載せていただきたい。2.外国語は日常語化されているもので、専門語は努めてさけるようお願いしたい。3.各見出し毎に出来る限りカット図案を増して調いをたせていただきたい。

「広報よこし」が読者を大きく手前に配置したのが、写真を力強くしている。取捨の喜びの表情が伝わってくるようである。背景にネギの山とトラが美しい。写真は横越の構成として、ヘンな子供、運動シリーズが他のシリーズと比較するとすぐれている写真が多い。写真の焼き付け、プリントが悪い、ブレまるといって、画が水平でないといった欠点もあるのだが、子供が登場した写真は、なぜか生き生きと感ぜられる。担当者が子供好きなのだろ

の意見や、要望があると思えます。その他、植物栽培、手芸、郷土史研究、文芸等々、趣味に関する記事も、もっと多くあるべきです。老若男女九千人がたむろする横越村という大家庭の「家庭新聞」という考え方の上、新聞はどのようにして発行されるべきか、一回の原則を守りながら、必要時に村民の要望がある場合、特集号、臨時増刊等の企画も欲しいと思えます。

住民アンケート 調査から

アンケート調査は、村内世帯の三割、六十二世帯を無作為に抽出し、その家族の成人者をも対象として抽出し調査を行った。調査回収率は九七%であった。

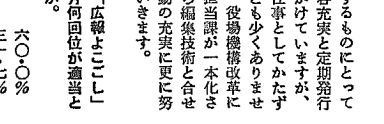


5.あなたは「広報よこし」の編集技術等につまらぬと思われるものは何か。(5つ以下を)

1位	ユニークな記事が少ない	8.7%
1位	ニュース性の低い記事が少ない	8.7%
2位	紙面がゴチャゴチャしている	6.0%
2位	定期的に発行されていない	6.0%
3位	解読性のある記事が少ない	5.3%

以下、記事の内容が使いやすい。広報紙が大きくて保存しにくい。写真が少ないなど。以下、記事の内容が使いやすい。広報紙が大きくて保存しにくい。写真が少ないなど。以下、記事の内容が使いやすい。広報紙が大きくて保存しにくい。写真が少ないなど。

6.あなたは「広報よこし」の発行を月一回が適切だと思いますか。



3.あなたは「広報よこし」の記事を読んで生活の参考にしたり、役立てていることがありますか。

よく参考にしている	15.0%
時々参考にしている	53.3%
参考にしない	28.3%
まったく参考にしない	3.4%

4.あなたの家は、「広報よこし」を保存していますか。

保存している 71.7%
保存していない 28.3%